

# 「下を向いて歩こう」

山村光春

絵：つきやまいくよ

どうやら僕は、いつも下を向いて歩いていたようだ。  
家から駅までの道、そして駅から会社までの道。  
その間に何があるのかなんて、自分でもびっくりするほど何も覚えちゃいない。  
行きは会社に遅刻しないように、帰りはうちで早くテレビが観たいから、  
理由こそ違えど、いつも頭の中は早く着け、早く着けえっとそればかり考えながら、  
やや前につんのめった姿勢で、競歩に近いスピードで、ただひたすら歩く。

よく初対面の人との、気まずい間をつなぐためのお約束として、  
どこに住んでいるか、なんてことをチャラッと会話したりするのだけど、  
たとえば僕が、どこどこですと言って、  
ああ、だったらあそこにおいしいラーメン屋さんがあるよねとか、  
なになに通りを入ったところ？なんて聞かれても、答えられた試しがない。  
(そしてたいてい、その場の空気がさらに気まずくなる)  
たぶん、はなっからソッチ系のことに興味がないんだと思う。  
僕にとって自分の住んでいる街は、ただの通るべき道のつらなりであって、  
それ以上でも、それ以下でもない。  
べつだんそれを卑下することも、気にすることなく、  
まいにちは、のんびんだらりと、当たり前のように過ぎていた。

そんな僕が、急に“散歩”が趣味になるという、信じられない事件が起きた。  
事件と呼ぶわりにきっかけは、あまりにもショボいのだけれど。  
ある朝、いつものように家から駅までの道を歩いていると、  
行く手を阻むオレンジ色の鉄柵が、突如僕の目の前に現れた。  
ベコリおじぎをする人の絵の上に「道路舗装工事中」とある看板の向こうには、  
丸坊主で紫のニッカポッカを履いた、キャラの濃ゆいおっちゃんが、  
ドドドッとけたたましい機械音を立てながら、必死で道路をならしていた。  
流したてのアスファルトはことのほか色が濃いグレーで、  
まだ冷めきっていないのか、ホカホカと湯気が立ち、  
心なしか焼きたてのホットケーキのような、いいにおいもする。  
僕はならば仕方あるまいと「まわり道」と書かれたもうひとつの看板を凝視し、  
案内のルートに沿って歩を向けた。すると、あとから舗装してある道は、  
なんだかんだと、あちらこちらにあることに気付いた。  
道全体がガガッと色濃くなっているところ、一部だけちょこんと舗装されてるところ、  
「止まれ」の“れ”の半分だけが、無情にも消えてなくなっているところ、  
かたちも盛りぐあいもそれぞれで、気にしてみるとこれがなかなか面白かった。  
いつも下を向いて歩いていたクセに、今までちっとも気付かなかったなんて、  
僕の目は相当なフシアナだなど、その時つくづく思った。

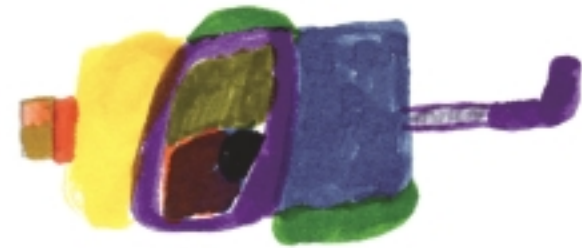


それから休日のたび、僕は知らない道を下を向いて歩くことに専念した。  
そしていい感じのアスファルトをみつけると、すかさず写メを撮り、  
決まって最近できたばかりのメル友(女子)に送るのだった。  
「これまた、たまらない感じのアスファルトをみつけましたね」  
彼女は、いつもそんなふうに感想を書いて送り返してくれた。  
「でも、私の家の前にあるアスファルトは、もっとすごいですよ」

そのメールがどうしても気になって、僕はすごいことをやらかしてしまった。  
たまには手紙を送りたいからと住所を聞き出し、次の休日を見計らって  
彼女の家の前まで、こっそり訪ねることにしたのだ。  
もちろん、彼女いわく“もっとすごい”というアスファルトを確認すること。  
だけど、まだ一度きりしか会ったことのない彼女に、  
せめてもうひと目会いたいという、ヨコシマな気持ちも本当はあった。

恐らくこっちだろうと、あたりをつけた四つ角をどきどきしながら曲がると、  
これだ！と目的の道はすぐに分かった。  
それはもともとある道の上から、さらに何度も舗装をしたのだろう、  
四角いグレーのグラデーションが、二重にも三重にもなり、  
さながらそれはパッチワークのような、見事な風姿をしていた。  
おおおっ！と感動しながら、じっと道を見つめていると、  
天のほうから僕の名を呼ぶ声が聞こえ、反射的にぐっと顔を見上げた。

空は抜けるように青く、光がきらきらとまぶしくて、  
僕はその時ようやく、世界の広さと美しさを感じた。



やまむらみつはる

1970年生まれ。BOOKLUCK主宰。  
ペーパーメディアの企画・編集・執筆に携わり、  
プライベート出版レーベル「BOOKLUCK  
PUBLISHING room」を立ち上げたばかり。  
将来の夢は、喫茶店と短編小説で人の心をほっ  
とさせること。著書に「眺めのいいカフェ」  
(アスペクト)、「take away souvenir」  
(<http://www.parkediting.com/bookcoverbook>)  
他多数。

つきやまいくよ

1972年生まれ。1991年ごろより絵画の個展  
活動を開始。歌やボエムのパフォーマンスな  
どでも活動中。2007年6月3日に細野ビルデ  
ング(大阪・西長堀)で大人も子どもも楽し  
める、飛び出す紙芝居音楽劇「BOCHI  
BOCHIホリデーショー」を開催予定。山村氏  
編集による、過去に送ったメールのタイトル  
を集めた本「NEWTITLE」(SKKY)も発売中。  
[http://www.skky.info/new\\_title.html](http://www.skky.info/new_title.html)